



■発行年月日/2017年10月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 杉浦信之 ■編集者/副院長 斎藤幸雄
〒260-8606 千葉市中央区椿森4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 http://www.hosp.go.jp/~chiba/

理念

信頼される医療を築く

Building Trust

私たちは、地域の方々に親しまれ、信頼される医療を目指します。

基本方針

- ・患者さんをはじめ、センターに関わるすべての方々の人権を尊重し、相互信頼で成り立つ安全・安心な医療を目指します。
- ・地域の医療機関に信頼されるエビデンスに基づいた幅広くかつ専門性の高い急性期医療の構築を目指します。
- ・良質かつ最新の医療を提供するために教育・研究・研修・情報発信を推進し自己研鑽に努めます。以上の方針を継続的に実現する病院運営に努めます。



「こもれび — 奥入瀬溪谷にて」

撮影：斎藤幸雄（副院長）



9 秒 98

院長 杉浦信之

桐生祥秀選手が9月9日に100m走の公認記録では日本人史上初の9秒台となる、9秒98を記録しました。

9月9日という日に合わせたのではないでしょうが9秒台ということで驚きました。皆さんもご存知のように、高校3年生の時に、日本歴代2位の10秒01を記録し、日本人初の10秒の壁を破る選手として最も近い位置にいたのが桐生選手でした。今年の世界陸上では代表選手にな

れず、リレーメンバーでの出場で失意の時期もあったようですが、リレーでは銅メダルをとり、今回の記録達成へとつながりました。私も、桐生選手が大学に入り、9秒台をだすと思っていたので、NHKのニュースで9秒98の記録を見たとき、びっくりするとともに実力のあるものが実力を発揮できたことに、大変うれしく思いました。

我が国においては今年もノーベル賞をもらう方が出てくるなどいい話があるかと思いますが、最近は隣国との問題や、集中豪雨などの被害などあまりいい話がありません。医療にたずさわるものにとっても同様な環境ですが、桐生選手のように自分を信じて、私たちの目標達成に向けて努力していきたいと思えます。

トピックス(目次)

増田政久先生退任記念祝賀会開催	2
連携医院紹介 / 新専門医制度 医師の研修が始まります	3
診療トピックス	4
ANECOTA 一隠れた史実 (50)	5
がん患者サロンだより/食事フェスタ開催のおしらせ	6
救急車両出動 / 緩和ケア研修会を開催	7
千葉県看護功労者知事表彰を受賞	8
千葉看護学校だより	8~10
市民健康セミナー / 専門外来・検査担当医師表/編集後記	11
外来担当医師表	12

主な行事予定

10/14	市民健康づくり大会
10/17	看護学校戴帽式
10/26	第171回市民健康セミナー
11/14	看護学校推薦・社会人入学試験
11/30	第172回市民健康セミナー
12/21	第173回市民健康セミナー

増田政久先生退任記念祝賀会開催

7月8日(土)に三井ガーデンホテル千葉にて、本年3月31日をもって院長の職を辞されました増田政久先生の退任記念祝賀会が開催されました。

増田政久先生は昭和50年3月に千葉大学医学部を卒業され、千葉大学医学部第一外科医員として治療研究に取り組まれました。昭和59年12月に医学博士を授与され、その後千葉大学医学部助手、講師、助教授を歴任され、平成14年4月に国立千葉病院心臓血管外科医長として奉職されました。以来専門分野である心臓血管外科の治療研究に従事される一方、千葉県医療審議会委員、千葉市地域保健医療協議会委員、千葉市病院運営委員等数々の委員を歴任し、当センターの発展のみならず医療の発展に尽くされました。

平成15年4月に副院長に就任されてからは、国の重要な医療政策である救急医療を推進し地域医療の向上に努めたほか、後輩の指導・育成にも力を注がれました。



平成20年4月に院長に就任されてからは、地域医療支援病院の継承、本センター新病院建設、医療従事者の充実、地域災害拠点病院及びDMAT指定医療機関の指定、地域がん診療連携拠点病院の更新など地域医療に多大な貢献をされました。

祝 増田政久先生退任記念祝賀会



祝賀会は、はじめに増田先生ご夫妻の入場の後、発起人代表として杉浦信之院長が挨拶をし、つづいてご来賓の元法務大臣の森英介衆議院議員、齋藤康千葉市病院局病院事業管理者、横手幸太郎千葉大学医学部附属病院副院長、松宮護郎千葉大学大学院医学研究院心臓血管外科学教授、久部洋子国立病院機構本部理事、奥井勝二元千葉大学医学部第一外科教授から祝辞をいただき、鈴木一郎名誉院長のご発声により乾杯をしました。

当日は土曜日にも関わらず行政、医師会、千葉大学、近隣病院、地域の開業医等の関係者の他、名誉院長、当院OB、現職職員を含めて約240人の方々が出席され、多大な功績を残された増田政久先生ならではの盛大な祝賀会でした。

増田政久先生は、4月から名誉院長として後進の指導にあたられるとともに、地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター東千葉メディカルセンター理事長兼センター長に就任されました。(管理課)



連携医院紹介

たて産婦人科

千葉市若葉区都賀3-6-18

☎ 043-231-0213

院長 楯 浩行

平素、貴病院には大変お世話になっており感謝申し上げます。

当院は昭和46年に開院し今年で44年目になります。

当院は、ローリスクの妊婦、分娩の取り扱いを中心とした産科診療および婦人科疾患の診断、治療を行っております。人員構成は常勤医3名、助産師4名、正准看護師7名です。現在までに帝王切開を含めて16700件余りの分娩を取り扱って参りました。

産科は妊娠から出産までにときにたとえローリスクであっても急変することがあります。例えば合併症妊娠、妊娠高血圧腎症、弛緩性出血、早産、低出生体重児、新生児疾患です。また婦人科疾患におきましても、婦人科悪性腫瘍、異所性妊娠、更年期障害、子宮脱、性の相談、性暴力被害者に対する対応などいろいろあります。

そのような時には熟練した医師はじめコメディカルの



マンパワーを必要とします。産婦人科をはじめとし貴院にはいつも快く引き受けていただき、大変お世話になって参りました。地域中核病院として存在していただいている事を非常に頼もしく思っております。

前院長(楯 二郎)も昭和43年頃より当時の岩津院長のもと3年半を貴院にて勤務させていただきました。貴院との関わりの深さを強く感じております。

産科の長時間勤務、人手不足等の現今当院も貴院にお世話になりながらがんばって参りたいと思っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

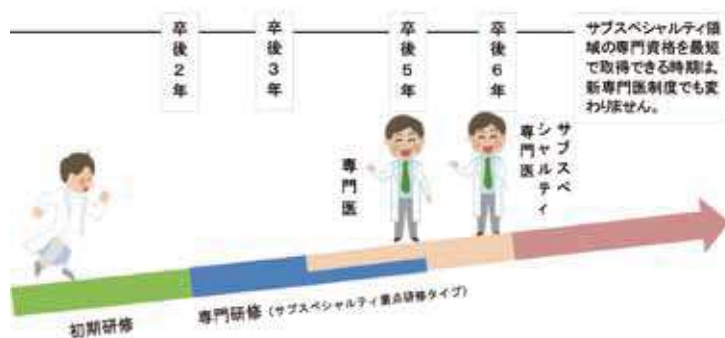
新専門医制度による医師の研修が始まります

2018年4月から、1年遅れで新専門医制度による専門研修が開始されることとなり、当院でも内科と外科は基幹施設として専門研修プログラムを作成し、新たな制度での後期研修医(専攻医)を募集しています。

医師は医学部を卒業後、まず2年間の初期研修で内科、外科、救急などを研修し、幅広く全身をみられるような基本的能力を身に付けます。初期研修修了後は3年間の専門研修を行い、各学会の専門医試験に合格するとそれぞれの科の専門医と認定されます。例えば内科では、卒後5年で総合内科専門医が取得できます。そして、さらに消化器内科、呼吸器内科などの各専門領域の研修を積み、消化器内科専門医、呼吸器内科専門医などをめざします。

これまで学会毎に専門医資格を認定していたため、様々な領域の専門医が生まれました。患者さんには解りにくかったため、日本専門医機構ができ、19の基本領域を決め、専門研修プログラム整備基準を示し、機構が認定したプログラムで研修を行い、専門医の質を担保することとなりました。

しかし、この方法が地域医療を崩壊させるのではないかと危惧され、実施が1年延期されました。2004年に初期



研修が必修化された際に、大学病院が派遣先病院から医師を呼び戻し、地域の病院で医師不足が occurred。今回の新専門医制度では医師の偏在が起らないように、日本専門医機構が調整に努めています。当院のプログラムでは、内科は千葉大学、千葉東病院、下志津病院、千葉中央メディカルセンターと連携して、また外科は千葉県救急医療センター、帝京大学ちば総合医療センターと連携して、専門医の育成に努めます。

最後に、当院は臨床研修指定病院であり、将来の医療を担う若手の医師が多数の指導医のもとで研修に励んでおります。患者の皆さまには何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。(教育研修部長 重田みどり)

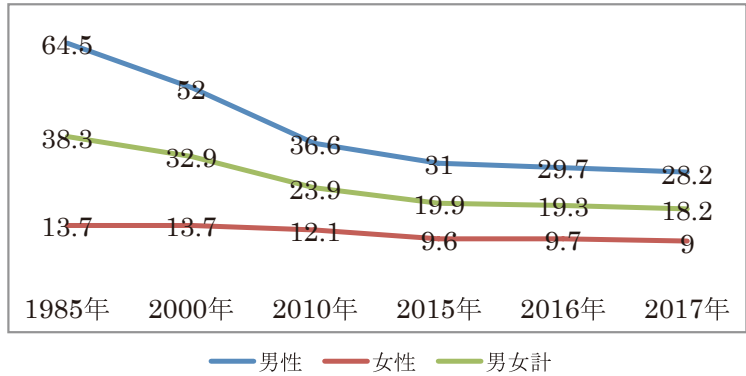
診療トピックス ⑥7

喫煙と癌 ～なぜいま禁煙なのか？～

日本たばこ産業が2017年5月に実施した「全国たばこ喫煙者調査」では我が国の喫煙者率は18.2%（男女計）と報告されており、ここ数年継続して過去最低の喫煙率を更新しています（表1、JT全国喫煙者調査：http://www.health-net.or.jp）。喫煙者率減少の背景としては、駅や路上など公共の場での喫煙禁止や建物内の分煙化が挙げられ、社会全体が喫煙し辛い環境になってきているのが一つの要因であることは間違いなさそうです。しかし、なぜ世の中で禁煙が押し進められているのでしょうか？

一つの回答は、「喫煙が様々な悪性腫瘍（がん）の発原因となるから。」です。悪性腫瘍は日本人の死亡原因の28.5%を占め、死亡原因の第1位です（表2、厚生労働省2016年人口動態統計）。厚生省研究班が1990～1997年にかけて行った調査では、タバコを吸わない人の発癌危険度を1とした場合、喫煙者では発癌危険度が男性で1.5、女性で1.6という結果で、喫煙者では約1.5倍癌になりやすいことが明らかとなりました。また、1990年には身体の部位別に発癌の危険度を調べた結果が報告されています（表3）。このように、喫煙に対する研究が進み、喫煙が人体にとって有害であるという実態が解明されたことに端を発して禁煙を推進する社会への転換が始まり、現在ではほとんどの地域で公共の場での喫煙は禁

表1：日本の喫煙者率推移



止されています。

さて、なぜいま禁煙が推進されているのかについては理解できても、実際に禁煙をするととなると尻込みしてしまう方が多いのではないかと思います。タバコ煙の中にはニコチンと呼ばれる依存物質が含まれており、喫煙をやめると離脱症状や強い喫煙欲求を引き起こし、禁煙を困難なものにします。これに対し日本では2006年4月から禁煙外来での保険治療が認可、開始されました。禁煙治療薬も2006年6月にニコチンパッチが、2008年4月には内服薬であるバレニクリン（商品名チャンピックス）が認可され、両薬剤を効果的に用いることで離脱症状や喫煙欲求を抑え、より楽に禁煙できる時代となっています。

当院では2012年1月より禁煙治療に取り組み始め、2016年12月までの5年間で309人に禁煙治療を行ってきました。治療成績は禁煙成功者数210例、禁煙成功率68.0%と、約70%の患者さんが禁煙に成功しています（表4）。禁煙を考えている方は是非、禁煙外来へお声をかけていただければ喜んで禁煙のお手伝いをさせていただきます。

表2：日本人の死亡原因別割合

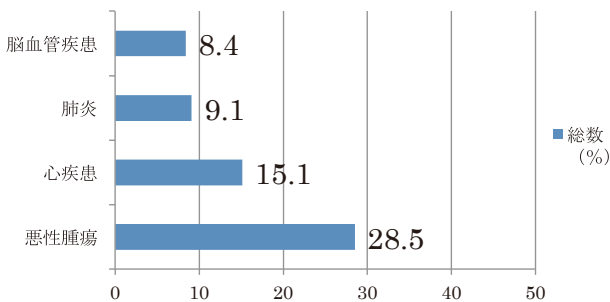


表3：喫煙者の癌発生危険度

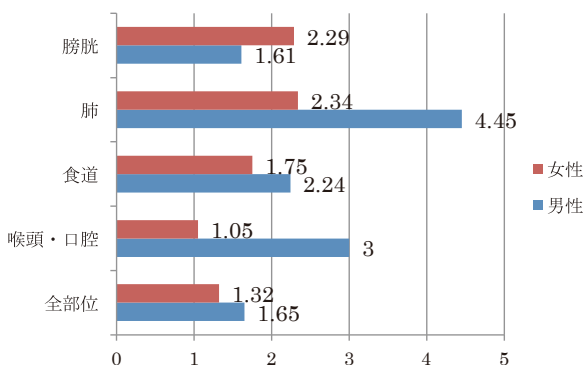
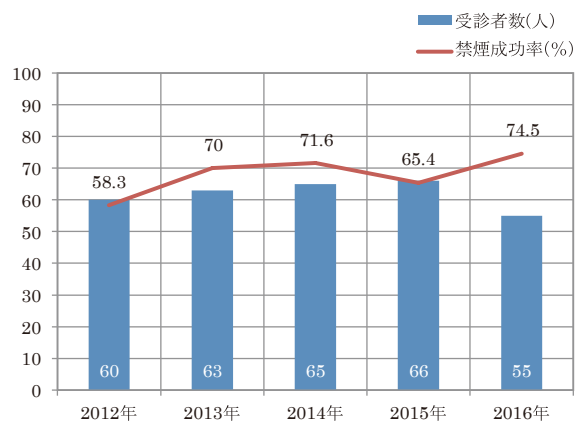


表4：当院禁煙外来受診者と禁煙成功率の推移



(外科 守 正浩)

A N E C D O T A (50)

— 隠れた史実 —

元研究検査科長 高澤 博

今回はドイツ医学の導入についてその経緯と後半ではウィリスの辞任について触れます。

わが国における近代的な西洋医学の直接の摂取は、江戸時代にあつては、シーボルトを代表例とする長崎のオランダ商館付き医員達と、また幕末に長崎に開設した海軍伝習所の医学教官ボンベ、ボードウィンたちを介して行われた。このことは医学所がオランダ語によるものであったことと相俟って、いわゆる蘭方医学がまずわが国に移入されることとなった。

その後の戊辰戦争による傷病兵の治療が、横浜のイギリス公使館付きの医員であったウィリスとシドルを中心に進められたため、イギリス医学が勢力を持つようになった。とくにウィリスは既述してきたように鳥羽伏見戦を初めとして、越後、会津ほかの戦争に新政府軍に従って参加し、上下肢切断手術、過マンガン水による防臭消毒、鉄製スプリントの骨傷への使用などによって、創傷兵の治療に好成績を示すとともに、西郷従道、山内容堂(英学派)らの治療を行って、その親交を得、活動の地盤を固めることとなった。

明治2年2月に開設された医学校兼病院において、ウィリスは大病院の中心として戊辰戦争後の傷病兵の治療、一般病人の治療に従事すると同時に、医学校で唯一人の外国人教師として講義・実験を行い、わが国の外科の発達を促した。当時ウィリスの教えを受けた者には、石黒忠憲、池田謙斉、佐々木東洋、高橋正純、岩佐純らがいる。当時ウィリスは、臨床では名を挙げたが、学術教育の面では不十分であった。彼は、石黒が下記に述べているような維新後の英学尊重の時流の中で、当初は過大の期待をもって迎えられたものと考えられる。「私が明治二年に上京した当時は、英学が最も勢力を有ち、凡て日進の学術は英語を基本とし、医学に於いても亦英国派に重きを置いたのです。それというのは我国の門戸開放は主として米国に依って行われたもので、米国は英語の国ですから、自然其の影響を受け、西洋知識は凡て英語に頼るべきものという輿論が形成されたのです。」(石黒『懐旧九十年』133頁)。

明治2年1月22日に福井藩(藩主松平慶永)の岩佐純(女珪)と佐賀藩(藩主鍋島直正)の相良知安(弘庵)(図1)が医学校取調御用掛を仰せ付けられた。我国の近代的な医学教育制度の基礎はこの二人によって構築されたのであるが、両者は当時における第一級の蘭方医学者であつて、またその背後に慶永、直正という蘭方医学の理解者の参議がいた。岩佐と相良は、我国の医学教育制度の改革に関して、極めて積極的な意見を持っていた。

ドイツ医学採用の経緯については、菅谷章による整理の結果を挙げておきます(『日本医療制度史』)。

第一 岩佐・相良らがドイツ医学の採用を熱心に主張したこと。

第二 フルベッキ(図2)やボードウィンがドイツ医学の優秀性を証言したこと。



図1 ボードウィンを囲んだ大学東校の教師たち(明治3年) 前列右から坪井芳州、相良知安、ボードウィン、岩佐純。後列右から司馬凌海、大石良英、島村鼎、池田謙斉。順天堂史より。

第三 相良は同郷(佐賀)の先輩であり、過つて長崎でフルベッキの教えを受けたことのある参議副島種臣と同大隈重信を口説き、政府の方針をドイツ医学採用の方向に動かしたこと。

第四 政府要路の高官たちがドイツ医学の採用に踏み切った大きな理由は、プロシヤの政体而立憲君主国でわが国の政体と近似していたこと、しかもドイツはヨーロッパの列強に比してアジアへの進出が遅れ、これがかえって政府要人に好感をもたせていたこと。

第五 ドイツ医学採用の決定がなされたころは、文教の最高責任ポストである大学別当は山内豊信(容堂)がその地位を退き、岩佐純の属する松平慶永(旧越前藩主)に変わっていたこと。ウィリスは容堂の主治医であつた。

イギリス医学の支持者としては医学校の内部では坪井、島村、石井らの教授、政府内では知学事山内豊信や太政大臣三条実美、その他の名が挙げられる。そのうち医学校の教官は元来蘭学出身者であり、蘭学の医書のほとんどがドイツ書の翻訳物であることを知っていたから、比較的容易に説得できたであろう。そして山内が七月の官制改正で知学事を罷め、翌八月に松平慶永が大学別当に任ぜられたこともあつて、ドイツ医学の採用がやがて政府においても決定されたのである。その際ウィリスの処遇が問題となった。これにはほぼ定説と云えるものが出来上がっていると萩原は述べそれを次のように要約した。すなわち、明治新政府が範をドイツ医学に求める決定を下したため、「英医ウィリス」はお払い箱になり、同情した薩摩がそのウィリスを拾ってくれたのである、と。

しかし、ウィリスは新政府によって解雇されたのではなく、かなり早い時期に、自発的な意志で辞意を決定していたこと、そして、ウィリス招聘という薩摩側の動きも、やはりかなり早い時期には(明治2年の夏、六、七月)はじまっていたと萩原は云う。それでは自発的意志を決定づけた要因は何か? 萩原の詳細な調査から云えることは、1) 契約年限は一年だがそれ以上を新政府は要請してくるだろうという自信が崩れた。2) 岩佐と相良、さらに二人を支持する蘭方医出身者の発言力の増大のために、「大病院」の運営が自分の一存だけでゆかなくなったこと。3) 一年という新政府への貸与期間も、まだその半ばをのこしていた。しかし、ウィリスは、自尊心を深く傷つけられたのか、医業への情熱にやみがたいものがあつたのか、東京の場合をさらに上回る高額な収入(月俸900円)に惹かれたのか、いずれにしても、ウィリスは公使館への復帰を断念し、新政府との「契約」を無視し、ひそかに鹿児島行きを決意した。4) おそらくウィリスにとって多勢に無勢、ドイツ医学を志向する多くの蘭方医出身者にかこまれて、力およばなかったというのが実情であろうか。5) 賜暇を利用しての一年という貸与期間の問題も辞任と密接な関係があつた。



図2 フルベッキ(南校教師) 長崎藩学稽古所「致遠館」では大隈重信、副島種臣らを教えた。

西郷隆盛が大久保利通などとはかり、ウィリスの鹿児島招聘を実現させたというのが、ほぼ定説になっている。しかし、西郷の「意志」が動いていたのは、まず鹿児島に西洋医学を範とした病院と医学校を創設しようという点で、つまり、西洋流の病院と医学校という計画が先にあつて、そのためにまずシドルを鹿児島に招聘しようとしたが、そのうちに石神などを通して、ウィリスに「大病院」を辞任する意向があることがわかり、それならウィリスを招聘しようではないかということになった(萩原「遠い崖8」)。

がん患者サロンだより

ストーマとは？

消化器系や尿路の疾患などで腹壁につくられた排泄口のことで、人工肛門と、人工膀胱があります。

ストーマでは自分の意志で排泄のコントロールができないため、専用の装具（ストーマ装具）を腹部に装着して排泄物をストーマ袋（パウチ）に受け止めます。

ストーマの管理方法や日常生活などについては、入院中に担当の先生や看護師さんから説明があります。外来でも相談に応じてくれます。回復状況により、排泄口周辺の形状が変わることがあるため、装具などの調整が必要になります。なお、状況により身体障害者に認定されると、いろいろな公的支援を受けることができます。

※ がん情報サービス（国立がん研究センターがん対策情報センター）から抜粋。

患者サロンの話題から

後遺症・副作用など(4) 排泄・ストーマ

普段は話しにくい、排泄に関しても話題になります。

前立腺を全摘した男性は、「尿が漏れる自覚はないが、防水パンツに尿取りパッドをしている。周りの人に匂うんじゃないかと気になる」ながらも、「地元の小学校で語り部の活動を」していると。直腸がんで「一応寛解」との方は、「年に何回かは、少しだけ便失禁をする時も。用心のためパッドをしている」と。

ストーマに関しては、「暑さで接着剤がベトベトして皮膚の状態もよくないので、出かけるのも億劫」と涙ながらに話された方。「手術の時から体重が減ったため、装具の位置・サイズを合わせるのに苦労している」や、「便が袋に出てくるときの感じが馴染めない。痒く

なったり時々漏れたり。匂いが他人に分かるのではとの不安が一杯だった。1年苦しんだ」との方。

「がんを告知された時は真っ暗になった。直ぐにスポーツクラブを辞めた」女性は、「手術後、装具も上手く合わず、匂いも気になっていた。ストーマ外来に来て、これまで何だっただろうか…。今はスポーツクラブに復帰して、水泳も再開した」と。

皆さんのお話を聞かせて頂いて、色々な悩みを持ちながらも、前向きに暮らしておられるのを感じました。

世話人一同も体験者です。ご一緒にお話ししてみませんか。ご参加をお待ちしております。（宗水）

参考：当院のストーマ外来は毎週金曜日に認定看護師が対応しています。受診ご希望の方は、主治医や看護師にお申し出ください。

がん患者サロン プロヴォックス患者交流会開催案内

日時：毎月第4金曜日 13：30～16：00

2017年 10月27日(金) 11月24日(金)

12月15日(金) *12月は 第3金曜です

2018年 1月26日(金) 2月23日(金)

場所：千葉医療センター内会議室

(当日、道順案内を掲示します)

対象：主としてがん体験者及び、そのご家族です。

どちらの医療機関に掛かっておられても参加できます。(予約不要、参加費は無料です)

問い合わせ：TEL 043-251-5311(代表)

(経営企画室 石澤)

今年度も秋の食事フェスタを開催いたします

今年度も11月13日(月)から17日(金)までの1週間、11時～14時まで、当院の院内食堂「クロスワン」(2F・コンビニエンスストア隣)にて、恒例の「食事フェスタ」を開催いたします。

この「食事フェスタ」は平成26年11月から始まり、今回で10回目を迎えます。

今回は、開催期間が丁度、新米の季節であるため「ごはんを美味しく食べよう！」をコンセプトに、千葉の食材を用いた健康的で美味しい食事を日替わりメニューでご用意させて頂きました。1食のエネルギー量は概ね600kcalと450kcal、塩分3g未満とし、当日の献立のレ



シピも無料配布いたします。

なお、この食事はこの期間のみの限定食となっており、食数に限りがありますので、早めのご来場をお薦めいたします。この期間に当院に来院される方は是非ご来場下さい。

(栄養管理室長 宮本佳世子)

救急車両出動しました

外科医長・DMAT 利光 靖子

本年3月に千葉市消防局から譲渡された救急車両(千葉医療センターニュース第65号掲載)の活用についての報告です。

災害派遣医療チーム(DMAT)活動車として千葉県消防学校総合訓練(7月11日)と大規模地震時医療活動訓練

(7月29日)に出動しました。

救急車を保有したことで患者搬送が可能となり災害時のDMATとしての活動範囲が広がりました。



大規模地震時医療活動訓練にて 新生児搬送の様子



緩和ケア研修会を開催しました

がん診療部長 豊田 康 義

緩和ケア研修会を9月3日・10日に開催しました。

この研修会は、厚生労働省の指針に基づき、がん患者さんに関わる全ての医師が身につけるべき緩和ケアの基本的技術・態度の習得を目的としたものです。千葉県では13カ所のがん診療連携拠点病院を中心に行われ、当院でも毎年9月の第1・第2日曜日の2日間にわたって開催しています。2009年から今年で9回目の開催となりますが、本年度の参加者は26人で、その内訳は医師25名(研修医12名)・看護師1名、当院から10名、他院から16名でした。

がん患者さんの苦痛は、身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、さらにスピリチュアルペインの4つの苦痛からなり、それらが相互に影響しあうトータルペインであると言われています。身体的苦痛を和らげる基本的な技術は必要ですが、それだけで苦痛が改善するわけではありません。4つの苦痛全てに対応する必要があり、その方法に決まった答えはありません。

研修会では、講師は一方向的に講義を行うのではなく、参加者の発言を促し、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりする行為で介入し、合意形成や相互理解をはかっていきます(このような行為をファシリテーションといい、当研修会では講師はファシリテーターと呼ばれます)。

研修会は、講義・グループワーク・ロールプレイからなります。癌の痛みのコントロールは進歩しており、オピオイド(モルヒネに代表される医療用麻薬)を中心としたWHO方式の管理法が確立され、世界的な標準治療となっています。また吐き気・呼吸苦など、痛み以外の身体症状の管理法も確立されてきました。

このようながんによる身体症状の治療や緩和ケアの概念など、基本的な技術を座学で勉強します。また、患者さんの精神的つらさに配慮しどのように接していくか、社会的困難にどう対応していくか、グループワーク・ロールプレイも行われます。グループワークでは、患者さんにとって何が一番良いのか、活発な議論が行われます。ロールプレイでは、医師役・患者さん役・観察者にわかれて、筋書きのない劇を演じ、悪い知らせをどのように伝えるのか、それぞれの立場になって考えていきます。

この研修会は、実際の診療に役立つように企画され、終了後のアンケートでも多くの方から評価されており、来年からも同様の日程で開催予定であり、当地域の緩和ケアの質の向上に貢献していきたいと考えています。



千葉県看護功労者知事表彰を受賞いたしました

外来副看護師長 大橋 富子

平成29年7月26日、千葉県看護功労者知事表彰をいただきました。

岡山県倉敷市倉敷看護専門学校を卒業し地元に戻り、初めて看護師として第一歩を踏み出した日から今年で34年を迎えました。当時を振り返れば長くもあり、あっという間に過ぎ去ったようでもあります。こうして私が働き続けることができるのは、上司の方々の厳しく温かいご指導やご支援、各職場の先生方、先輩、同僚、後輩、メディカルスタッフの皆様の支えがあったからだと思えます。心から感謝申し上げます。また家族の協力なくしては続けることはできず、私を全力で支えてくれた家族にも心から感謝しています。

これまでたくさんの患者さんに出会いました。そして、患者さんに接してたくさんのことを学ばせていただきました。「患者さんにとっていい看護がしたい」という志を立

て、今日まで歩んできました。

患者さんが笑顔になり、患者さんとともに乗り越えることができた時、看護師としてこの病院でこの仕事に携わることに幸せを感じます。何より患者さんの「ありがとう」の言葉や、患者さんの笑顔に元気づけられ、看護の道を選んでよかったと思う瞬間でした。

これまで出会った多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



千葉看護学校だより

千葉医療センター附属千葉看護学校

里帰りの会を開催

教員 高梨 亜紀子・大久保 美香

平成28年度の卒業生82名を対象に、6月30日「里帰りの会」を開催し、63名の参加がありました。

卒業生たちは笑顔で現状を語り、久しぶりに会う仲間との時間を楽しんでいました。

4月から看護師として現場に立ち、多重課題や複数の患者の受け持ち、知識不足、入退院の対応など看護の責任の重さを感じていました。慣れない環境や多忙な日々でも成長できたことを一言ずつ述べ、「患者さんからありがとうと言われてうれしかった。」「先輩が親切で気にかけてくれる。」など皆様に支えられていることを感じていました。

参加した感想では「久しぶりにみんなに会ってほっとした。」「頑張っているみんなに会い、一人じゃない

と感じた。」という意見が多数ありました。仲間と語り、同期の大切さを再認識したようです。

私たち教職員は、まだまだこれから成長過程にある卒業生たちが今後も仕事が続けられるよう見守っていきたいと思います。今回の参加にあたっては各施設で勤務調整などご配慮いただき心よりお礼申し上げます。



62期生里帰りの会参加者

千葉県下看護学生体育大会

教員 村松優子

平成29年7月7日、千葉県下看護学生体育大会を開催しました。今年度のテーマは「shin」。心、信頼、親睦…たくさんの「しん」の意味が込められたテーマです。

本校と旭中央病院附属看護専門学校の2校のみの参加ではありましたが、同じ看護師を志す学生たちが一堂に会し交流する機会になりました。今年はバレーボール、バスケットボール、ドッジボール、オセロゲーム、有志によるパフォーマンスが行われました。試合の結果は、旭中央病院

附属看護専門学校が優勢でした。

今年は当番校として本校の学生が体育大会の企画運営を行いました。日々の授業や実習と並行して大会の準備を進めることは、学生にとって容易なことではありません。しかし、体育大会委員の学生がリーダーシップを発揮し頼もしく成長していく姿を間近で見ていると、学生の持てる力は素晴らしいと感じます。

体育大会開催にあたり、ご尽力頂きました皆様、ありがとうございました。

千葉県下看護学生体育大会に参加して

旭中央病院附属看護専門学校
2年 伊藤真彩

7月7日に千葉県総合スポーツセンターにて千葉県下看護学生体育大会が行われました。昨年度は参加校が3校でしたが、今年度は、2校となり、数々の競技を通し、交流が深められるのか、心配な気持ちで参加をしました。種目の変更等もあり、各校の意見をまとめながら運営に当たられた皆様は、大変だったと思います。また、当日の準備やスムーズに進行して頂き、とても感謝しております。

参加した学生全員が、一生懸命自分の種目に出場し



て、チームの仲間と声を掛け合いながら汗を流し、団結力を高めていました。そして、体育大会という機会を通して、2校の間に新たな友情が生まれたのではないのでしょうか。

来年度からは、3学年、全学生が参加することになります。学校内の繋がりはもちろんですが、2校の繋がりも新たに深めることが出来たら良いと思っています。



高校生インターンシップを開催しました

教員 村松優子

平成29年8月4日に推薦指定校の高校生対象のインターンシップを開催しました。

看護を目指す高校生に看護の仕事を理解してもらうことを目的としています。100名を超える応募がありましたが、抽選で54名の方に参加いただきました。

模擬授業では日常生活援助技術の清潔の演習、千葉医療センターの病棟では看護師についてシャドーイングを行い、実際の看護の現場を見学してもらいました。

参加者のアンケートでは、「看護師の仕事を実際に見ることができて、とても勉強になった」「今回の体験で、看護がすごく魅力的だと思った」「実際に現場を見て看護師



病棟でのインターンシップの様子



模擬授業の様子

になりたいと思った」「看護学生が受けている授業を受けることで、さらに看護に興味があった」「将来は絶対看護師になりたいです」といった感想が多数ありました。

高校生にとって看護・医療を身近に感じる機会となり、これからの進路選択の一助となれば嬉しく思います。

ご多用の中、ご協力頂きました看護部の皆様にご心より感謝申し上げます。

あなたも一日看護学生になってみよう！

～ 看護学校の授業体験・病院探索 ～

教員 高田 純子

平成29年7月24・25日と千葉市内の小学校5・6年生と中学生を対象に公開講座を昨年度同様、今年度も開催しました。参加者は、白衣に着替え、看護学校での講義や看護体験と千葉医療センターの病院探索をしました。

看護学校では、昨年度と同様に「チーム医療とは」の講義と看護体験を行いました。看護体験ではシミュレーターモデル人形による心音や呼吸音の聴診、また高齢者体験や妊婦体験、ベビーモデルの抱っこを体験しました。

参加者からは「お母さんが妊婦のとき、大変だったんだね」「高齢者は動くとき、疲れちゃいますね」「赤ちゃんは小さくてかわいい」「街中で妊婦さんや高齢者を見かけたら、お手伝いしますか？って声を掛けてみます」などの感想がありました。白衣になり、看護学校での講義や看護体験を行う参加者は、とても生き生きとし、興味をもっている様子でした。

病院探索では、薬剤科、理学・作業療法室、病棟を探索しました。参加者は、それぞれの専門分野で説明をうけ、また専門分野で行っている医療・看護を実際に見学・体験させて

いただきました。参加者が真剣に話を聞き、真剣に取り組む姿が印象的でした。

病院では専門的な知識をもったさまざまな方が働いており、患者さん1人1人に関わっていることに参加者は驚き、医療・看護への一層の興味・関心につながったように感じました。今回の公開講座を通し、参加者が医療・看護を身近に感じる機会となり、また参加者の将来の職業選択の一助になればと思っています。

公開講座にご尽力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



病院探検の様子

第50回 椿森祭を終えて

教員 武藤 由紀

平成29年9月16日(土)に第50回椿森祭(学校祭)が行われました。

今年度は「LOVE ～愛でつなぐ看護の心～」というテーマで、学生たちが温かな雰囲気や飾りつけや趣向を凝らした催し物を企画しました。テーマには看護に必要な思いやり、心配り、優しい気持ち、そのすべての根源である「愛」をさまざまな催し物を通して地域の方々に届けたいという学生の思いが込められています。

椿森祭は、地域の方々と看護学生がつながりを持つことができる貴重な機会です。さまざまな催し物を通して学生の「看護の心」を感じていただきたいという思いで準備をし、当日を迎えました。午前中は、学生が実習を通して考えた看護について発表会が行われました。発表後は活発な意見交換が行われ、学びの多い発表会となりました。

一般公開は、地域の方やこれから看護を志したいと考えている方、学生の家族や友人など多数の方々が来てくださいました。催し物は手浴、白衣試着会、身体測定、災害対策、高齢者・妊婦体験など看護にまつわるものや、ハートツリーを行いました。さらに、皆様にお楽しみいた



災害対策ブースでの様子



学校入り口

だけるよう、縁日、バンド、ダンスといったパフォーマンス、軽食など、全ての学生が協力し取り組みました。来校者の方々からは「楽しかった」「看護を知ることができた」というお言葉をいただくことができました。

椿森祭を企画・運営したことで学年を超えて協力することの大切さを知り、ものごとをやり遂げる達成感を得ることができました。看護学生として必要な社会性、創造性、表現力を育成する学習の機会となりました。

皆さまへは、日頃の感謝を申し上げますとともに、今後とも学生自治会の活動へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様に健全な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、8月を除く毎月「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

7月・9月に行われたセミナー

7月27日(木)

「腰の痛みについて
～腰椎疾患を中心に～」

講師：整形外科 佐久間 詳浩

9月28日(木)

「結核と非結核性抗酸菌症」

講師：呼吸器内科 西村 大樹

今後の予定

第4木曜日 午後2時から4時
会場：当院地域医療研修センター

10月26日(木)

「中心部の見えにくさ
～手術が必要な黄斑疾患について」

講師：眼科 大岡 恵美

11月30日(木)

※11月は、第5木曜日。

「塩」って悪者？
～昔からずっと暮らしのそばにあった「塩」

講師：栄養管理室長 宮本 佳世子

12月21日(木)

※12月は、第3木曜日。

「加齢と耳鼻咽喉科」

講師：耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長 渋谷 真理子

セミナーに10回参加された方には、記念品をさしあげます。

(お問い合わせ先 管理課)

専門外来担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
和漢診療科		永井千草 8:30～13:00 完全予約制	永井千草 8:30～13:00 完全予約		
腎内科(内科)		今澤俊之 10/3,10/31・11/14,11/28 【12月以降】(第1・第3火曜日) 13:00～16:00	上田志朗 (第2・4水曜日)8:30～11:00		
不整脈外来(循環器内科)			中野正博(第2・4水曜日) 14:00～16:30 完全予約制		
ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00～15:00	
緩和ケア外来(外科)		豊田康義 手渡(認定看護師) 13:30～15:30 完全予約制	豊田康義 手渡(認定看護師) 9:30～11:00 完全予約制		
ストーマ外来(外科)					谷(認定看護師) 9:00～12:00 完全予約制
禁煙外来(外科)			守正浩 13:00～ 完全予約制	守正浩 14:00～ 完全予約制	
肛門外来(外科)	守正浩 14:00～16:00 完全予約制				
助産師外来(産婦人科)		<完全予約制>午後		<完全予約制>午前・午後	
母乳外来(産婦人科)	<完全予約制>午後2枠		<完全予約制>午後2枠		<完全予約制>午後2枠
性カウンセリング(産婦人科)				大川玲子 8:30～17:00 完全予約制	

検査担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)	金田 暁	田村 玲	齊藤 正明	阿部 朝美	伊藤 健治
	里見 大介		里見/土岐	福富 聡	
大腸ファイバー(午後)	内科交替医	外科交替医	外科交替医	外科交替医	内科交替医
超音波	腹部	阿部 朝美	田村 玲	伊藤 健治	杉浦/金田
	心臓			山田 善重 <第2・4木曜日> 午前	高見 徹

編集後記

今年の夏は変な夏でした。天気予報では8月初めと9月初めは特に暑くなるとのことでしたが、長寿台風の影響で梅雨明けしてからは毎日のように雨が降っていました。そんな中、九州地方では大雨によって川が氾濫、また土砂崩れなどで甚大な被害が出て、未だ復旧していない地域もあります。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、皆さんの夏休みはどうでしたか？ 私は、親戚が亡くなり、予定を変更してお通夜と告別式参列になってしまいました・・・

(M.S)

【編集委員名簿】

(編集長 齋藤幸雄)
(副編集長 雨宮伸治)
(森嶋友一) (齋藤雅男)
(新藤 学) (打矢直記)
(徳淵真由美) (坂野和彦)
(佐藤厚子)

■ 受付時間は原則として、平日（月曜日から金曜日）の8:30から11:30まで ■

外来診療担当医師表 “聞く” “聴く” “訊く” の対応を! 平成29年10月1日より

診療科		月	火	水	木	金	
内科	新患	杉浦信之 齊藤正明	杉浦信之 齊藤正明	[交替医] [交替医]	金田 暁 田村 玲	齊藤正明 岡澤哲也	
	再診	呼吸器内科 <small>新患は紹介制</small>	丸岡美貴 安田直史	西村大樹 金木結佳	江渡秀紀 野口直子	丸岡美貴 西村大樹	江渡秀紀 安田直史
		消化器内科 <small>(消化管、肝、胆、脾)</small>	伊藤健治 田村 玲	金田 暁 宮村達雄	伊藤健治 阿部朝美	篠崎勇介 西村光司	阿部朝美 嶋 由紀子
		総合内科		芳賀祐規	辰野美智子 <small><第1・3・5水曜日></small>		
	糖尿病代謝内科 <small>新患は紹介制</small>	島田典生	石塚伸子	島田典生	岡澤哲也 大原恵美	島田典生 大原恵美	
神経内科 <small>新患は紹介制・予約制</small>	長瀬さつき	古本英晴	長瀬さつき	古本英晴	櫻井 透		
精神・神経科 <small>新患は予約制(木のみ)</small>	海宝美和子	高橋 絵理子 篠崎勇介	海宝美和子	清原雅生			
循環器内科 <small>新患は紹介制 月曜日は完全予約制 受付は10時まで</small>	高見 徹	久保健一郎	齋藤 寛	高見 徹	中里 毅		
小児科	重田みどり	重田みどり	渡邊博子	重田みどり	渡邊博子		
外科・消化器外科	森嶋友一	[交替医]	豊田康義 <small>(緩和ケア)</small>	里見大介	[交替医]		
	福富 聡		山本海介	野村 悟			
	榊原 舞		利光靖子	土岐朋子			
	守 正浩		石毛孔明				
乳腺外科 <small>紹介制・完全予約制</small>	鈴木正人	鈴木正人	手術日	鈴木正人	鈴木正人		
	中野茂治	中野茂治		中野茂治	中野茂治		
整形外科 <small>火・金の受付は10時まで</small>	大河昭彦	[交替医]	大河昭彦	村上宏宇	[交替医]		
	阿部 功	手術日	阿部 功	白井周史	手術日		
	村上宏宇		佐久間 詳浩	佐久間 詳浩			
	白井周史		榎本圭吾	榎本圭吾			
股・膝関節外来 <small>完全予約制</small>			阿部 功 <small>(股関節) 14時～15時30分</small>	白井周史 <small>(膝関節) 13時30分～15時</small>			
形成外科 <small>木曜日は完全予約制・金曜日の受付は10時まで</small>	手術日	鈴木文子 三木規子	手術日	[交替医] <small><完全予約制></small>	鈴木文子		
脳神経外科 <small>月曜日は新患のみ</small>	[交替医]	丹野裕和 川崎宏一郎	大石博通	手術日	尾崎裕昭 川崎宏一郎		
呼吸器外科	斎藤幸雄	手術日	斎藤幸雄	斎藤幸雄 芳野 充	手術日		
心臓血管外科		中谷 充 <small><完全予約制></small>	平野雅生 鬼頭浩之		中谷 充		
皮膚科 <small>木曜日は完全予約制</small>	大久保 倫代 秋田 文 浦崎智恵	[交替医]	大久保 倫代 秋田 文 浦崎智恵	角田寿之 <small><完全予約制></small>	[交替医]		
泌尿器科 <small>新患は紹介制 水曜休診 金曜の受付は10時まで</small>	佐藤直秀	櫻山由利	手術日	佐藤直秀	[交替医] 手術日		
	一色真造	一色真造		櫻山由利			
	川名庸子	菅原 翔		川名庸子			
	宮内武弥						
産婦人科 <small>新患受付は月・水・金(紹介制)</small>	山縣麻衣 田淵彩里	<small><完全予約制></small>	岡嶋祐子 黒田香織	<small><完全予約制></small>	岡嶋祐子 木嶋由理子		
	黒田香織 <small>(産)</small>	木嶋由理子 <small>(産)</small>	山縣麻衣 <small>(産)</small>		田淵彩里 <small>(産)</small>		
	新井みゆき 岡田恭子 大岡恵美 櫻井まどか	新井みゆき 岡田恭子 大岡恵美 櫻井まどか	新井みゆき 岡田恭子 大岡恵美 櫻井まどか	手術日	岡田恭子 大岡恵美 櫻井まどか 武石真里恵		
頭頸部外科・耳鼻咽喉科 <small>新患は紹介制 再診は予約制 火・水の受付は10時まで</small>	渋谷真理子 坂本夏海 高橋 侑里	渋谷真理子 鈴木 誉	[交替医] 手術日 <small>※新患のみ</small>	手術日	鈴木 誉 坂本夏海 高橋 侑里		
	放射線科 治療	酒井光弘 <small><予約制></small>		酒井光弘 <small><予約制></small>		酒井光弘 <small><予約制></small>	
	歯科口腔外科 <small>新患は紹介制 再診は予約制</small>	中津留 誠	中津留 誠 <small>第1・第3午後休診</small>	中津留 誠	嶋田 健	中津留 誠	
嶋田 健		嶋田 健	嶋田 健	武内 新	嶋田 健		
武内 新		武内 新	武内 新		武内 新		
病理診断科	<small><完全予約制(月～金)></small>						

※専門外来・検査担当表は11ページに掲載しています。